**中田延亮（指揮者）**

**NAKATA Nobuaki, Conductor**

（200文字）

筑波大学医学専門学群在学中に桐朋学園ソリスト・ディプロマコースに入学、コントラバスを専攻する一方で指揮を学び、在学中より活動を開始する。07年ブルガリアのスタラザゴラ歌劇場でヨーロッパデビュー後、ドナウ交響楽団主催の国際指揮者コンクールで第１位を受賞。ラトヴィア国立交響楽団、ブラショフ歌劇場（ルーマニア）など海外オーケストラへの客演や、国内のオーケストラとも数多く共演を続けている。

（330文字）

京都生まれ。筑波大学医学専門学群在学中に桐朋学園ソリスト・ディプロマコースに入学、コントラバスを専攻する一方で指揮を学び、在学中より活動を開始する。その後2005年より本拠を欧州に移しウィーン市音楽院古楽科などで更に学んだ。また巨匠ジャン・フルネ氏に認められ、最晩年の生徒として師事し薫陶を受ける。

　07年ブルガリアのスタラザゴラ歌劇場でヨーロッパデビュー、またドナウ交響楽団主催の国際指揮者コンクールで第１位を受賞。これまでにラトヴィア国立交響楽団とのエストニアツアー、ポルト・アレグレ交響楽団（ブラジル）、ブラショフ歌劇場（ルーマニア）などの海外オーケストラへの客演や、国内のオーケストラとも数多く共演を続けている。2008-10年スタラザゴラ歌劇場首席客演指揮者。

（410文字）

京都生まれ。筑波大学医学専門学群在学中に桐朋学園ソリスト・ディプロマコースに入学、コントラバスを専攻する一方で指揮を学び、在学中より活動を開始する。その後2005年より本拠を欧州に移しウィーン市音楽院古楽科などで更に学んだ。また巨匠ジャン・フルネ氏に認められ、最晩年の生徒として師事し薫陶を受ける。

　07年ブルガリアのスタラザゴラ歌劇場でヨーロッパデビュー、またドナウ交響楽団主催の国際指揮者コンクールで第１位を受賞。これまでにラトヴィア国立交響楽団とのエストニアツアー、ポルト・アレグレ交響楽団（ブラジル）、ブラショフ歌劇場（ルーマニア）などの海外オーケストラへの客演や、国内のオーケストラとも数多く共演を続けている。2008-10年スタラザゴラ歌劇場首席客演指揮者。

コントラバス奏者としては新日本フィルハーモニー交響楽団とバレンシア歌劇場管弦楽団に在籍した他、オーストリア・スペインの古楽団体、室内アンサンブルの公演にも数多く参加した。

（700文字）

京都生まれ。筑波大学医学専門学群在学中に桐朋学園ソリスト・ディプロマコースに入学、コントラバスを専攻する一方で指揮を学び、在学中より活動を開始する。その後2005年より本拠を欧州に移しウィーン市音楽院古楽科などで更に学んだ。また巨匠ジャン・フルネ氏に認められ、最晩年の生徒として師事し薫陶を受ける。

　07年ブルガリアのスタラザゴラ歌劇場でヨーロッパデビュー、またドナウ交響楽団主催の国際指揮者コンクールで第１位を受賞。08年にはブラジルにおける日本人移民100周年を記念して皇太子殿下（現 天皇陛下）ご臨席のもと、リオデジャネイロの伝統ある市立劇場で開催された「日伯交流音楽会」に招聘されペトロブラス交響楽団を指揮した。14年、群馬県で群馬バロックオーケストラを創設、同団とは後期バロックをレパートリーの中心として共に活動を続けている。

17年に開催されたBlue Danube オペラ指揮者コンクールで第２位入賞。現代作品の演奏にも積極的に取り組み、アンドリス・ゼニティス（ラトヴィア）、ガブリエル・ペニード（ブラジル）など各国の若い世代の作曲家から絶大な信頼を寄せられている。

これまでにラトヴィア国立交響楽団とのエストニアツアー、ポルト・アレグレ交響楽団（ブラジル）、ブラショフ歌劇場（ルーマニア）などの海外オーケストラへの客演や、国内のオーケストラとも数多く共演を続けている。2008-10年スタラザゴラ歌劇場首席客演指揮者。

コントラバス奏者としては新日本フィルハーモニー交響楽団とバレンシア歌劇場管弦楽団に在籍した他、オーストリア・スペインの古楽団体、室内アンサンブルの公演にも数多く参加した。